

広報特別委員会記録

平成30年9月25日

【開催日】 平成30年9月25日

【開催場所】 第2委員会室

【開会・散会時間】 午前10時～午前11時42分

【出席委員】

委員長	山田伸幸	副委員長	森山喜久
委員	大井淳一朗	委員	岡山明
委員	河崎平男	委員	河野朋子
委員	笹木慶之	委員	水津治
委員	恒松恵子		

【欠席委員】 なし

【委員外出席議員等】

議長	小野泰		
----	-----	--	--

【事務局出席者】

事務局長	中村聡	事務局次長	石田隆
議事係主任	原川寛子		

【付議事項】

- 1 市議会モニターからの意見について
- 2 次号の発行について
- 3 その他

午前10時 開会

- 1 市議会モニターからの意見について

山田伸幸委員長 皆さんおはようございます。広報特別委員会を開催します。

付議事項については市議会モニターからの意見について、議会日より「The 市議会」の第52号の発行について、その他についてやりたいと思います。それでは最初に、市議会モニターから御意見が寄せられていますので、それからまず初めに見ていきたいと思います。モニターからの意見が出ていますので、これをちょっと最初に読みたいと思います。広報特別委員会に関わる場所です。

議会広報紙「The 市議会 Vol. 50」について。1、議会広報紙は誰のために、何のために発行されているのかよく分かりません。議会には発行する責任があるからですか。2、広報紙を編集するための技術面での問題意識が薄いように思います。企画性、見出しの字体と付け方、レイアウト、写真やカットの内容と配置など、取りあえずこの4点でもきち

んと編集技術を勉強していただきたいと思います。一般に発行されている雑誌等は是非参考にさせていただきたいというのが、最初です。続いて今度はナンバー2のページで、51号について来ています。これちょっと森山副委員長読んでください。

森山喜久副委員長 1、議会広報紙「The 市議会 Vol. 51」について。「The 市議会 Vol. 51」が届きましたので意見を述べます。私は、先般のモニターからの意見（1）で議会広報編集に関わって4点について指摘しましたが、「The 市議会 Vol. 51」は改めて改善の必要性を強く感じました。（1）広報紙に対して読者が一番興味を持つページは、表紙に続く2、3ページの見開きの内容です。広報紙の企画性が一番問われているページですが、委員会はこのページの重要性と位置付けをどのように考えているのでしょうか。議会広報紙の表紙は斬新になりましたが、続いて開いたページに幻滅を感じ、それ以上のページを読んでもみようという意欲が湧かないと思います。（2）少なくとも議会だよりは、市民と議会を結ぶ情報紙であり、市民のためにどれだけ開かれた議会活動に努力しているかをお知らせするせっかくのチャンスでもあります。そのための企画であり、編集のセンスも要求されます。なぜ議案審査中心の議会活動しか載せないのでしょうか。例えば、7、8月には議会カフェが開かれました。新しい形式の議会報告会を市民に紹介し、興味を持ってもらえるいいチャンスにする考えはなかったのでしょうか。（3）最初の見開きページをどのような企画ページにするのかは、編集のセンスが問われ、一番の力量の要るページでもあります。例えば、私がこの見開きページを市民参加のページと位置付けるとすれば、先ほどの議会カフェや議会改革度ランキングアップの意味、市議会モニター2期目スタート、あるいは相次ぐ他市議会の行政視察とか、広聴委員会とも提携して市民参加の新たな企画を次々と立てる必要があります。当然、ページ全体のレイアウトや見出しの立て方、写真など編集技術が問われるコーナーでもあります。（4）広報紙全体の企画力の問題もあります。前段の企画ページだけでなく、様々な新企画コーナーが必要です。例えば、市民との関わりでは、請願や陳情書の書き方・出し方、障害者用の傍聴席、ここが違う傍聴者への資料配布、ユーチューブでの委員会公開、政務活動費の公開など、市民に積極的に議会活動の変化をアピールする議会アラカルトや市議会探検隊コーナーなど、市民が市議会に興味と新鮮味を感じてもらえる企画が必要ではありませんか。（5）「The 市議会 Vol. 51」で特に目に付いたこと。ア、委員会レポートもそろそろ改善と工夫が要りませんか。イ、会派の視察報告も余り意味のあるものとは思えま

せん。せっかく税金を使った視察なのに、市民には何のこともほとんど理解できません。会派の皆さんもこの程度の内容の視察だと市民から受け取られるのは不本意だと思いますが。ウ、議案賛否の一覧表も単なる資料的な意味しかありませんが、逆に市民から見れば大いに勘違いする一覧表でもあるのです。賛否の分かれた議案だけ掲載なのですが、そんな説明よりも一覧表のほうが説得力があり、市民には議会に提案された議案全てと思われがちです。少なくとも誤解を与えない工夫が必要で、見出しも議案に対する議員の賛否状況ではなく、賛否の分かれた議案ですなどに変えてはどうでしょうか。2、広報委員会の編集技術の向上について。広報委員会メンバーの編集技術の向上は避けて通れません。ア、少なくとも広報委員長はレイアウト用紙による編集と明確な編集方針を持つ必要があります。イ、広報委員会で先進地視察や広報編集の基本的な技術を勉強する必要があります。ウ、可能であれば、県議長会に要請して毎年開かれる議員研修会で議会広報紙に関する編集技術や編集のイロハなどを教えてもらえる講師の要請や県内議会だよりのコンクール表彰を行うことを、当市議会が率先して提案してはどうでしょうか。

山田伸幸委員長 いろいろ厳しい意見が寄せられたと思っておりますが、最初の1ページにある50号に関することはですね、大体その次の51号に関してかなり突っ込んで書かれていますので、この51号を議論することが、一番必要ではないかなと考えています。51号のほうについて議論を進めていきたいと思っておりますが、1の(1)から(3)は、これは見開きページのところに関する意見なんですね。御承知のように51号について見開きページは省略しようということで、前回委員会で決まってそれに対する厳しい意見だと思うんですが、あのときは大方の意見として伝えるべき中身がないということだったと思うんですけど。それを見られたモニターからこういう意見が出ているということなんですが、皆さんのほうでこの(1)から(3)に関わって御意見など上げていただきたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

大井淳一朗委員 まず、このように多岐にわたって建設的な意見を出していただいて大変有り難く思います。この1番(1)から(3)については見開きページということで、前回51号の編集会議でも、特集をどうするかという議論の中で、議会カフェのことも少し上がりましたが、最終的には割愛するという形になりました。それを受けて市民の方からこのような意見が寄せられたことは、確かにそのとおりだなと思っております。その一方で、ここの見開きは担当した人は分かると思うんですが、なか

なか力量の要るページで、1回作ったらなかなかうまく行かずに変更とかあったりして、難しい面でもあります。とはいえ、何か、議会だよりの「The 市議会」の顔に当たる部分ですので、市民の言われるように、特集を極力組む。今回の51号のときのように、特に何も大きな話題となる議案はなかったんですが、議会カフェでも入れたらよかったのかなと後になって思いました。

河野朋子委員 ほとんど今大井委員が言われたのと同じなんですけど、作る側としての立場で考えてやったんですけど、本当に読む側からしたらどうなのかって、改めて51号を開いてみたときに、私もいきなり委員会のレポートが載っているというのを見たときに、本当に市民の皆さんにとって興味のある最初のページになっていたのかなというのを改めて感じました。つつい作る側の目線で長ければ長いほどそうになってしまっているなど自分自身もそう思いますし、読む市民の皆さんの目線で改めて編集していくということにしないと、慣れてしまってこなすというところでやっていったという反省も、改めてこの指摘で感じましたので。これ以降そういうことを反省して取り組まなくちゃいけないなというふうには思いました。

恒松恵子委員 私もすいません、まだ新人で1年なんですけど、今まで市議会だよりをさっと流して拝読してしまして、今回広報委員会と、作る立場に携わって、議員でありながら編集能力とか言葉を選ぶセンスとか、一字一句訂正しながら、市民の皆様に分かりやすく進めるためにこんなに協議を重ねていることを初めて知りました。ただモニターの方のおっしゃることもわかりますので、改善できることは改善して、プロの力を借りることは難しいかと思われんですけど、何らかの形で勉強が必要かなと思いました。

河崎平男委員 今までの議会だよりの「The 市議会」ですが、内容とすれば文言とか市民に分かりやすい立場で、委員の皆さん一生懸命考えてきたんですけど、先ほど、河野委員から言われたとおり、わかりやすい広報紙を作るということで、市民にとってという基本を頭の中に入れながら、今後はやっていかななくてはいけないというふうに感じました。

山田伸幸委員長 大体おおむねそういう御意見ということで皆さんどんなですか。

水津治委員 年に4回ということで、定例の議会の終了後に出すというサイクルの中で、そのときに市民に伝えたいテーマというか、それが4回ごとに必ずいい材料があればいいんですが、ないときの工夫というのが大変かなと。ここに例としていろいろ御案内頂いています。こういったときもたまにはいいかなというのものもあるし、結局市民の立場ということが、いつも頭がないと51号のような形になるかなと思いました。

岡山明委員 7月3日に行政視察で佐賀県神埼市から行政視察で議会だよりの発行について山陽小野田市に来られるのがたまたま台風で中止になって、視察の話ができなかったんですけど、悪い悪いと言いながらも、山陽小野田市の議会だよりは結構視察に来られる。今回51号はたまたま頭の見出しがなかった、アピールするものがなかったという状況の中で、それまで結構いい議会だよりの形でこういう視察もあったということは私はしっかりと見ていただきたいと思っているんですけど。それともう一つ、今回50号の答えというのがページの2のほうに市民と議会を結ぶ情報紙であり、市民のためにどれだけ開かれた議会活動に努力していくか、そういうお知らせするせっかくのチャンスであるという答えまで入っていると。そういう状況の中で、あとは企画という部分で、ちょっと先ほどもあった議会カフェとかそういう部分をちょっと何か頭に見出しの部分に入れていく必要があるかなと。企画企画と言われるが、私らプロじゃない議員がやっているんですから、なかなかそういう難しい部分があるというのものもあるんでしょうけど、それなりの努力は必要と思います。プロのような議会だよりを発行してくれというのは難しい、厳しいという部分も私は見受けられるから、ある程度議員としての最善の形を、市は市でちゃんと広報出していますので。今回ロゴマークができましたけど、それを議会だよりで入れるかどうか、いろいろ市の広報紙との絡みもある状況で、こっこの議会だよりの努力はして、今までもしてきているという状況もその辺は見ていただきたいなと。そういう状況の中で、今後もう少し企画の部分も勉強させていただこうという思いで、企画に関して努力はしていこうと思っています。

笹木慶之委員 まず申し上げたいことは、こういう市議会だよりのことか、市の広報も一緒なんですけど、限りないテーマだと思います。どれだけの人にどれだけのものを読んでもらえるか、どれだけ理解してもらえるかというのは、発行者としての責任であると思うんですけど、今も話がありましたように、かなり努力をしていることは事実なんです。しかし、なかなか力足らずという面もあったり、あるいはさっきありましたが、テ

ーマが不足しているようなことも多々あります。しかし言われていることは、やはりできる限り読んでもらえるもの、いわゆる市民とつなげるものであってほしいという願いが込められていると受け止めれば、我々としてみれば持てる力の最大限の努力をしたい、すべきだと思います。限らないテーマとして、やっぱり真剣に取り組んでいくべき事項だと思います。

森山喜久副委員長 もう皆さん大体言われているんですけど、いい意見を言われたなとつくづく思います。(3)のところに、市民参加のページとかそういう形で議会カフェや議会改革度ランキングアップの意味、あと市議会モニター2期目スタートという部分を入れたらどうかということ、こちらもこなす作業といったら申し訳なかったんですけど、私たちが後ろに持っていった部分をちゃんと前のほうに持っていったみんなの見る視線は気にしなさいよという指摘だったと思っています。その点からもこういう意見を取り入れながら、企画性を考えていかなきゃいけないなと思いました。

山田伸幸副委員長 皆さんの御意見をして、大体指摘に沿って、市民と議会をつなぐページという位置付けをはっきりさせていきたいと思いますが、大体そういう内容で答えを書こうと思うんですが、よろしいですかね。(4)は今後の提案といいますか、これいいものを出していただいたなと思っているんですが、今後の方向で工夫をしていきたいと思うんですがそれでよろしいですかね。採用するというところでこういった内容を。次に(5)です。委員会レポートについて出ているんですが、委員会レポートは視察項目だけなんですね。ただ、いつも苦勞するんですが、限られたページの中で、この視察報告をどれだけ入れられるかという問題もあるんですが、この辺はいつも皆さん項目だけで、実際はレポートを作っているんですけど、その点についてはどのように感じているでしょうか。(「アとイは違う」と呼ぶ者あり)ごめんなさい。アから行きましょう、委員会レポート。

大井淳一朗委員 アについては、これは議会報告会にも言えることなんですけども、よく市民あるいは有識者から言われるのは決まったことを報告しても余り意味がないじゃないかと。これから起きること、今起きていることを報告したほうがいいじゃないかということなんですよね。委員会レポートは今起きていることではなくて、既に決まったこととか、こういう結果になりましたという事後報告なので、余り市民に関心のないこ

とが多いと思います。ですから委員会レポートを形式的に三つないし四つ何々委員会とやっていますけれども、さっきの特集と関連しますけれども、抜本的にというか、僕たちの努力の入れ方も少し変えていかなきゃいけないのかなと思います。結構大変なんですけど、レポート書くのもね。そういうところに力入れても、うまくいっていないところあるので、そこら辺は改めていかないといけないのかなとは思っています。

山田伸幸委員長 具体的にはまだ何も考えられていない。

大井淳一郎委員 そうですね。だから、委員会レポート無理にやらなくてもいいんじゃないかなと思うんですよね。それより特集でクーラーとかやれば。

岡山明委員 私はここに書いているんですけど、委員会レポートが私はこれ一番大切な部分と思っているんですけどね。クーラーとかやっぱり委員会で話が出ますので、総務でクーラーとかの必要性は一番議会でやっているんだから、一番新しい報告になると思うんですけど、その辺はやっぱり今と同じような形でもいいから、私はこのレポートは絶対に残してほしいなと思っているんですけど。これは一番フレッシュな議題じゃないかと思っているんですけど、どう言われても今の形をある程度残してほしいと個人的には思っているんですけど。

山田伸幸委員長 これは私自身も心掛けているんですけど、委員会というのはやはり、この議会の核になっている部分だと思うんです。それが何か、質疑だけで終わっている。レポートになっていないなというのは感じているんです。その辺何か皆さん疑問とか改善点とかあれば。中には議案がないというところもありますけど。

笹木慶之委員 我々議会制民主主義でやっているわけですが、議会によって行政の方向性が決まるという、その決定の最小単位なんです。だから必然的に委員会での結果というのが、本会議に結び付くということになれば、委員会の状況はきちんと載せるべきだと思います。ただ、市民の読むほうとして結果だけという意見もありますが、結果が大事であって、案外知らない方もたくさんいるように思います。我々執行部じゃないわけですから、途中のどうなるか分からんようなものを上げたって、それは戸惑いが起こる可能性もありますから、もちろん全く触れないという意味ではなしに、長期にわたるものであれば進捗

状況を示していくことも結構でしょうが、やはり委員会で決定して、それを本会議で審議するという方法を持っているわけですから。今岡山委員も言われましたが、私はこれは大事にしていくべき事項だと思います。ただ表現方法はいろんな形にありますからそれはそれとしてという問題がありますが、そのベースは崩すべきではないと思います。余り市民の方に関係ないような議案が出たときには無理やり委員会レポートを書く必要もないかなと思います。それは今までもやってきているわけですから、そういったことを取捨選択しながら、力を入れるべきところは少しスペースを拡大してでも書くし、ないところは縮小して書くという形で知らせるべき事項ではないかなと思います。

河野朋子委員 このモニターの方の指摘されていることは、多分委員会レポートの読ませ方に改善と工夫が要るんじゃないかという指摘だと思うんですよ。私もずっと議員になってから、たまたま広報にずっと関わっていたので、その間の議会だよりの変遷というか、変えてきたのを全部見てきた立場から言えば、委員会レポート自体が、当初は委員個人の名前があって発言があって答弁があってというそれだけ載せていたときもあって、それはやっぱり読む人にとって何のことか分からないんじゃないかということで、きちんと議案のまず概要を書いて、どういった質疑をやって最終的にどうなったのかという、ある程度起承転結じゃないですけど流れが見えるように変えたらどうかというところで、個人名も当初は議員の全員の名前が載るように、議案の流れというよりは議員に配慮して全員の名前を載せるような、そういったときもあったわけですよ。それから考えるとかなり改善も重ねてきたし、これはもう概要とどういった質疑、本当に必要な部分だけ載せていますよね。最終的にどうなったかって読むほうにしてみたらこのほうが分かりやすいし、以前のことから考えれば変えたと思うんですよ。今回51号、その前からですけど一般質問を大幅に変えましたよね。一般質問は改善ができたんですけど、そのときに委員会レポートまで手が回らなかったというのが正直なところで、じゃあ次は委員会レポートを変えていこうという流れで、メンバーも替わったんですが、そういったことからして委員会レポートを今見直す時期じゃないですかといった指摘を多分されていると思うので。確かにフォーマットにしても見せ方にしても、これでいいのかなっていう、多分疑問を投げ掛けられていると思うので、そろそろこの辺の見直しもする時期が来たのかなとは思っていますので。レポート自体はきちんと議会が終わって、委員会でどんな議論がされてということでは、レポートはきちんと載せるべきだという考え方には私も賛成ですけど、見せ方

ですよね。少しは改善していますが、まだ更に改善が必要じゃないかっていうのは。なかなかスペースをどうするかとかいうことになるとう編集段階から、編集長がレイアウト用紙を使ってとなると本当はかなりプロに近いような、そこまで本当にできるのかなと私も余り自信がないですけど。確かにパターンが決まっていて、ずっとこれを繰り返しているのでもそろそろ少しリニューアルしてもいいのかなというところですよ。

大井淳一郎委員 今、極論言いましたので。私も別になくしてもいいという意味だけで言ったのではなくて、今のままじゃなかなか読んでもくれないのも事実ですので、総務文教とか民生福祉というタイトルじゃなくて、クーラーとかオートとか、そういうタイトルから魅せるような形でいかないといけないし、質疑応答と結果だけでは…その辺は本当河野委員が言われるように改善しないと読んでもらえないというところがあります。先ほども言いましたように特集に今まで以上に力を入れるべきだと思います。岡山委員が言われたクーラーの件も総務文教分科会での話ですけど、議会全体の問題でもありますので、そういった特集に組む一つの候補に上げてもいいのかなと思いました。

山田伸幸委員長 52号についての意見も出てきたわけですが。次に視察報告について皆さんどうですか。

大井淳一郎委員 今は視察報告ということで政務活動費が出ている形で、今までは内訳しか出ていなかった。領収書、実費弁償になったという経緯があります。会派の視察報告は今全員協議会の公開の場でまだ1回目ですけどなされて、ある程度報告する場面があります。今ちょっと確認が取れていませんが、中にはインターネット上にその会派の視察報告書をアップしているところもありますので。ただその一方で、インターネットの環境のない人たちが会派の視察報告が見られない状況があるので、どうするのかということもあるんですが、興味あるのかということもあるので。そこを項目だけ載せるぐらいならというのは、この意見を見て思いました。

山田伸幸委員長 確かに最近僕も、自分で見てから、視察報告はこれはいいやという感じで、どうしても見てしまうんですよね。何を見てきたんだろうかというのは分からんのですよね。あそこあそこあそこ行きましたと言って相手に配慮してか知らんけど全部均等に載せるという配慮も行われてきたと思うんですけど、やはり委員会が何を目的に行ってきた

というのがきちんと分かるようにすべきではないかなと思うんですよね。委員会で行った場合はですね。会派であってもやっぱり主眼は何かということぼんと出す方向がいいのかなという思いを持っていますけど。皆さんどんなでしょうか。

岡山明委員 これ視察報告という形で半ページ使っているんですけど、視察の内容って表現は入れてあるんですよね。どういう内容のことで視察に行ったかという、その辺が読んでいただけないというのは非常に厳しいなと思っているんですけど。

山田伸幸委員長 項目だけですよ。

岡山明委員 それだけですからね。太陽パネルの設置についてとか、何を目的に行ったのかということは議会だよりに表現されているのは間違いなくあるから、委員長言われたとおりどういう目的かというのは載っているけど、読んでもらえるかどうかという部分なんでしょうけど。今後どうするかというのはなかなか難しいと思っているんですけどね。

山田伸幸委員長 写真が会議室の写真ですよ。ここも要改善ということでもよろしいでしょうか。今後改善の道を探っていくということで。議案賛否について。ここは要するに、全部載せろとは書いていないんですよ。誤解を与えない工夫が必要だと。これを一番言われるのは私なんです。

大井淳一郎委員 今の状況は賛否の分かれたものだけ載っています。議員によっては、×××と付いていて反対しかしてないのかというような印象を与えるのではないかという指摘だと思います。その一方で一覧を全部載せると、さっきの会派の視察と同じなんですけれども、紙面に都合があります。インターネットでは全部見られるようになっていますが、先ほどの話じゃないけどインターネット環境のない人もいますので。今モニターの言われるような項目に変えるというのも一つのいい提案だと思います。

岡山明委員 私はちょっと不本意なのが賛否の分かれた議案って大井さんが言われたのはそういうあと、議案をどういうふうな形でやるかと思うんですけど、この賛否の分かれた議案っていうことで、これは議員として私はこれ一番大切だと個人的には思っているんですけど。議案に対して賛成か反対か、議員としての主義主張を訴えているんですけど、その辺はや

っぱり載せていただきたい。あと項目の選択はいろいろ…

河野朋子委員 このタイトルの今までは議案に対する議員の賛否状況という
ような説明文でしたが、モニターの方が提案されているように賛否の分
かれた議案ですと打ち出せばよかったという話でこれは取り入れるべき
だなと思いました。

大井淳一郎委員 これはモニターの意見には書いてないんですけど、今回考え
られるのは監査の、要は斜線が入る。監査委員は退場するということで、
今までは議長は議長のため賛否はありませんと下に小さい字で書いてあ
るんですけど、人が読むと、この議員は退場ばかりだという印象を与
えるので、ちょっとそこの表現ももし改善してあげればいいかなと思
います。前回は議長の横に監査を持っていったりしましたね。

山田伸幸委員長 その辺はあと流れが出てまいりますので、その中でも今のよ
うにしていきたいと思います。では2、広報委員会の編集技術の向上に
ついて、これ一番頭の痛い部分なんですけど、特に広報委員長はレイアウ
ト用紙でと、私にできることといえば見開きページかなというふうに思
っているんですけど。あとはなかなか崩せませんので、崩していかない
といけない部分があれば、それはちょっとやっていきたいと思いますが、
勉強ですね。先進視察、広報編集の基本的な技術を勉強する必要がある。
よそからはどんどん視察に来て、意見交流しているんですよ。だから私
も必ず出るようにするんですけども、もう一人私以外の人と一緒に視察
対応を今までお願いをしてきて、今まで出られた方がどれだけいらっし
ゃいますかね。今後そういう機会があれば全員出られるように順番回し
ていきたいと思いますので、御協力お願いします。出られてみてどうで
すか。

森山喜久委員 実際先進地視察のところで出て、改めて説明を聞く中でこうい
うふうなことでやってきたのかなと。先ほどちょっと出た委員会レポー
ト一つとっても、こういうふうな概要、質疑、結果という形で起承転結
の部分を示すような形のほうでこちらも改善してきたという話を説明し
ながらこういうふうに変えてきたんだと、自分自身もちょっと
勉強になったので、今聞くだけしかできないのを、これからアウトプ
ット、自分も出していくような形をしないと力にならないなというふう
に改めて思います。

山田伸幸委員長 皆さんのボックスにこれが入っていたと思います、議会広報の研修。事前に事務局と、もし10人で行ったら何ぼかかるかって計算してみたら100万ぐらい掛かるんですよ。現実的ではないなど。この方は「地方議会人」の議会クリニックをしておられる方なんですよ。もしかかなうならば、100万出すぐらいなら来ていただいたほうがはるかに安くつくのではないかなということ、広報とそれから県内、この意見では県議長会ということがあるんですが、本市だけでもやったらどうかというふうに思っているんです。その際ほかの議会に呼び掛けるとか、それについては議運の決定が必要だと思うんですよ。あと議長がそういう予算の執行を許していただけるかどうかという問題もあろうかと思うんですが。そういった検討をしているんですが、皆さんの御意見をお聞きしたいんですが。

笹木慶之委員 2番のア、イですね。これはどなたか知りませんが、アもイも命令口調になっていますね。必要がありますと言い切っていますね。それから、2番目もイも必要がありますと言い切っていますね。意見なら、意見のように書かれないといかがなもんかと思えますけどね。というのが、広報委員長にこうしなさいということなんですよ。広報委員会で決めるべきことですよ。我々が判断して決めていくということではないですね。それから2点目の、いろいろ議員も勉強していると思いますが、それまで持った能力もあるでしょう。だから、それに加えてね、今たまたま予算のことも出ましたが、そういったことも配慮しながら、可能な方策を探っていくといえますか、先ほど言いましたが、限らない努力は当然必要だと思いますが、いきなりここまで飛んでしまうとなかなか厳しいかなという気がします。だから、前向きに努力することはいいと思いますが、やはりその辺はきちっと整理して取り組んでいくべきだと思います。

山田伸幸委員長 ちなみにこれは私は命令とは思っていません。必要があるというふうに、そういう御意見ですので。

大井淳一郎委員 アについては、明確な方針を持った上でも、一応委員会なので私も委員長しているんで委員あつての委員長なので、山田委員長も心得ていらっしゃると思うんでみんなで決めていくことだと思います。要はその方に来ていただくというのも一つの方策かもしれません。まだ議員研修は今年度していませんので、それも一つの候補に上げますが、これも議運等で決めていきたいと思っておりますので。県議長会うんぬんなん

ですが実は議会だよりを発行していない議会も結構あるんですよ。ここまで発展するかどうかはこれから将来課題ということで。たまたまうちの受入れが、今年終わっちゃいましたので、これは難しいかもしれませんがどっかの場で例えばうちが研修したらオープンでやっていますので、他の市議会も来ていただいたこともありますので。そういう呼び掛けはいとわないのかなと思います。これは一つの候補なんで、このあと議運でこういうのができるかどうか議論していきたいと思います。

山田伸幸委員長 私は実は今まで何回かこういう場に出たことがあります。やはり、分かっているつもりでやっても意識していないという違いがすごく出てきているんですね。やはり自分なりに見せたいと思っても、ついスケジュールというか、広報委員会いつでも本会議終わったら、広報紙発行のために何回も原稿のチェックをやったり、編集委員会やったりということで、大変ちゅうのあるんですが、その中でもやはり私たちに課せられた使命といいますか、市民と議会をつなぐ非常に重要なツールとして、この議会だより・The 市議会を編集しておりますので、やはり、この指摘はある程度やっぱり受け入れて、変えていけるところは変えていって、よりよいものにしていきたいというふうに私自身は思っておりますが。今、言われた研修とか、編集技術の向上について、今まで全部、正直言って事務局任せのところもありましたので、ちょっと努力も求められているわけですが。皆さんの御意見その点でいかがでしょうか。

笹木慶之委員 取りあえず広報委員ということなんでしょうけど、これ広報委員は代わるんですよ、メンバーが。やるなら、議員全体でという取組をしないと意味がないと思いますね。誰がどうなるか分からんわけですね、代わってきます。委員長も代わる可能性もありますし。だからさっき私が言ったのは、決して命令ということを行っているわけじゃなしに、断定的に言い切られているが、これやっぱり我々の中で、真剣に考えないといけない事項だということを行ったわけですよ。決してそれをどうこう言ったわけじゃありません。議員全体の中で取り上げるべき事項じゃないかと思えます。

岡山明委員 私は広報委員会の先進地ということで、今委員長が逆に教える先生をこっちに招くと。行くというのはお金が掛かりますので、私は委員長が言うとおりに招待する形で、全員が受けられますので、是非そういう形を取っていただきたいと。もう一つウのほうなんですけど、やっぱり

議員研修会も先ほど言われたようにもう終わったんですけど、よその市町村におきましても、やっぱりその山陽小野田市は独自のツールを持っていますので、その辺は13市いろいろありますけど、そういう研修会で議会の広報紙のコンクールの形で表彰じゃないけど、それもやっぱり向上するためにもいい刺激になるんじゃないかと私は思っているんですけど。その辺は是非こういうモニターの方もそういう形を進めたらどうかとあります。それは是非、今後県の議員の研修会の場において、表彰する形の1日開催、全県の議員が来ますので、その場でコンクールを行うと。もう極端じゃないけど、その日にやる、議長副議長の選定もあるんでしょうけど。是非コンクールのような形を取っていただいて、広報紙の今以上の向上を図っていただきたいと思います。

大井淳一郎委員 岡山委員の言われることはよく分かります。ただ私たち取りあえず、自分たちの市議会ですべて技術を向上させることから始めて、将来的に県を巻き込むことがもしできるのであれば、そういったこともチャレンジしてはどうかということをやっていたらと思います。

水津治委員 広報紙というのは発行の回数が少ないほど難しいんですね。ある程度のサイクルであるほうが本当は作りやすいんです。年に1回とか2回となると本当に悩むというのが、回数によって大きく影響してきます。年4回の発行の中で、定型的なもの以外に何か入れるとなると、市民の方が100%喜んでいただけるというのは結構厳しいかなと。私は、4回では思っています。どこまでできるか、任期の間にどれだけ技術が習得できて反映できるかという本当に厳しい問題を頂いたかなと思っています。年間通してこれに関わるのではなくて、4回という中でどれだけ努力ができるかというのがこれから。会派で議会だよりの視察に行ったとき、向こうの努力している点は写真をたくさん使う、文字を大きくする、取材しやすいように事務局に議員がいつでも使えるカメラを置いておくという、そういった環境づくりも改善していく方法の一つかなと思いました。抽象的な発言になりましたが、気付きです。

山田伸幸委員長 以前の委員会的时候に採用されませんでしたけど、私はもっと細かく発行しようという提案をしたことはあります。ただ、そうなるとうちの広報委員会は年がら年中そればかりということになりますのでね。これは今現実的にはどうかなというのはありますし、予算のこともありますので。

河野朋子委員 笹木委員もさっき言われましたけど、本市は、議員自らが議会だよりを作るということになるのと、全議員がやはりそういったある程度、知識とか技術が必要になってくるのかなというふうには思いました。今のこのメンバーが2年たったら、あと1年ですね、1年たったらメンバーが代わるっていうことはもう分かっていますので、どなたが広報の委員になられてもある程度、編集についての基礎知識を身に付けておく必要があるということと考えたら、全議員が参加する研修として、そういうものを今後やったほうがいいのかというふうには、思いました。ほとんどそういった機会が今までなかったし、中でお互い言いながら、何となくこう様子を見ながら身に付けてきたところもあるんですが、それも本当にどこまでどうだったのかなということもありますので、改めて基礎的なところは全議員がきちんとそういう研修を受けるということ、来年度になりますかね、には実施したほうがいいのかというふうには思いましたけど。ほかの市議会に呼び掛けるという方法もありますけど。取りあえずはそういうふうにしたほうが良いと思います。

山田伸幸委員長 今日の話として、こういう研修も広報としてはするべきだということ、議長に上げていただいて議運で諮っていただくということになるんですかね。だからこのまま今までどおりの編集ではないということで、大いに努力をしていくというふうな形で、回答も作っていきたいというふうに思いますが、あと、文面については私のほうで、一度作って皆さんに見ていただくということでよろしいでしょうか。では1番についてはこれで終わりたいと思います。ぜひ皆さん「地方議会人」読んでみてください。そのほかに全国のいろんな情報なんかもあって、議会改革のこととかいろいろ出ておりますので、参考にさせていただきたいというふうに思います。

午前10時55分 休憩

午前11時5分 再開

2 次号の発行について

【議事の概要】

(1) 紙面構成について

- ・今号は資料2のとおり16ページ構成とする。
- ・定例会最終日の結論を見て、特集ページの内容を検討する。
- ・委員会レポートは文字の大きさなど形式を少し変える。

- ・議決結果のタイトルはモニターからの指摘どおり「賛否の分かれた議案です」に変更する。
 - ・トピックの案として民生福祉常任委員会が火葬場を視察した件が挙げた。
 - ・表紙の案として「古式行事」を考えているとの報告があった。
- (2) 原稿割当と校正担当について
- ・ 2、3 ページ以外の担当を別添のとおり決定した。
- (3) 発行までの流れ（予定）について
- ・ 別添のとおり決定した。
 - ・ 自治会便の担当者は岡山委員と河崎委員に決定した。

3 その他

- (1) 一般質問の論点と回答の原稿締切日
- ・ 10月22日（月）に決定した。
- (2) 次回委員会開催日
- ・ 9月28日（金）本会議終了後に決定した。
- (3) その他
- ・ 委員長から「議会としてラジオ番組を持ってないかとの申入れがあったので、今後協議していきたい」との発言があった。

午前11時42分 散会

平成30年9月25日

広報特別委員会委員長 山田伸幸

●原稿割当と校正担当について

ページ	内容	原稿割当	校正担当
1	表紙	山田	全員
2-3	9月定例会概要		
4	委員会レポート《総務文教》	河野	笹木
5	委員会レポート《民生福祉》	大井	山田
6	委員会レポート《産業建設》	水津	岡山
7	委員会レポート《理科大》	笹木	森山
7	一般質問	各議員 (15人)	河野
8			大井
9			山田
10			森山
11			恒松
12			笹木
13			岡山
14			河崎
15	議決結果	事務局	全員
16	トピック	恒松	全員
	12月定例会日程	事務局	
	編集室	森山	

議会だより第52号発行までの流れ（予定）

- 10月15日（月）原稿締切日
- 10月15日（月）～10月18日（木）
 - ・原稿入力
- 10月19日（金） 第1回編集会議 初校
- 10月22日（月）～10月24日（水）
 - ・初校の修正
- 10月25日（木） 第2回編集会議 2校
 - ・初校正の確認と不足分原稿の初校の確認
- 10月26日（金）～10月30日（火）
 - ・2校の修正
- 10月31日（水） 第3回編集会議 3校
 - ・2校正の確認
- 11月5日（月）
 - ・委員長による最終確認→印刷所にOKを出す
- 11月6日（火）～11月13日（火）
 - ・印刷所で印刷製本及び自治会ごとに束ねる
- 11月14日（水）
 - ・議会だより第52号の納品
- 11月15日（木）
 - ・議会だより第52号を自治会便で配付